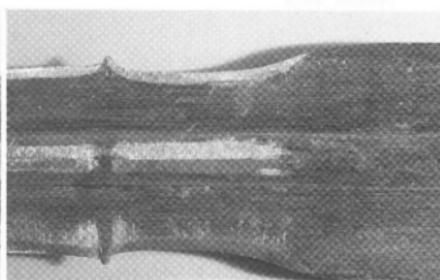


1 仕上研磨前（穂先端付近）



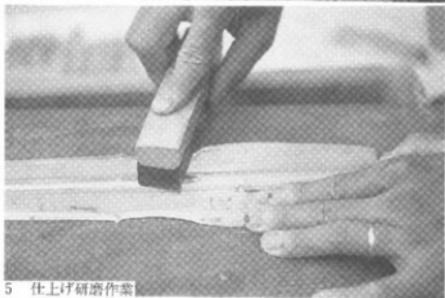
2 仕上研磨前（割方付近）



3 仕上研磨作業



4 仕上研磨作業



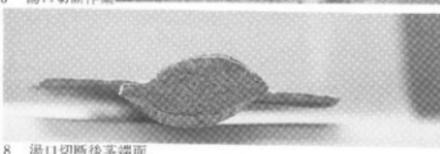
5 仕上研磨作業



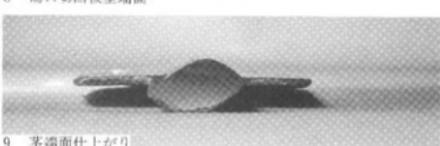
6 湯口切断作業



7 基端面研磨作業

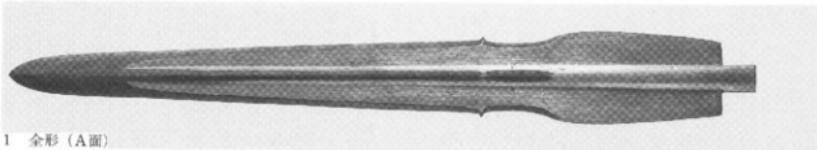


8 湯口切断後茅端面

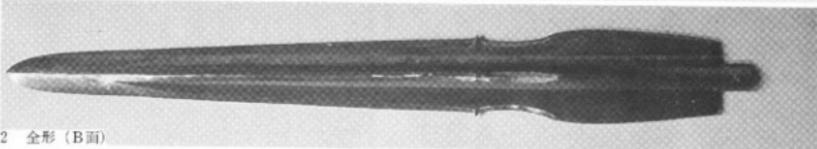


9 茅端面仕上がり

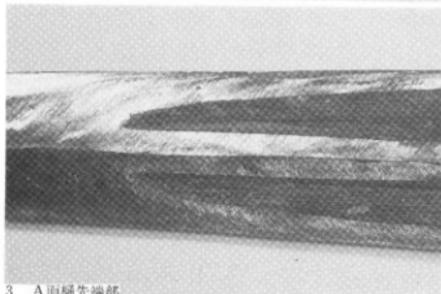
写真5 研磨（仕上研）・湯口処理



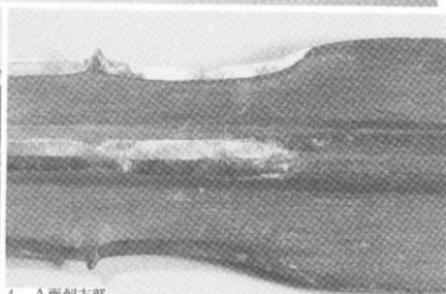
1 全形 (A面)



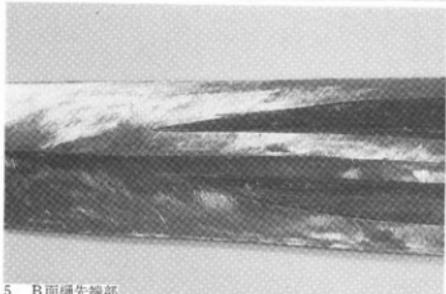
2 全形 (B面)



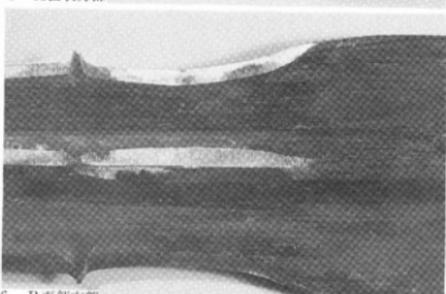
3 A面穂先端部



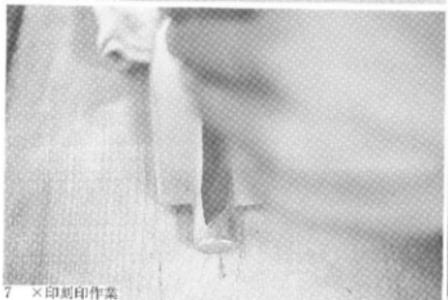
4 A面剣方部



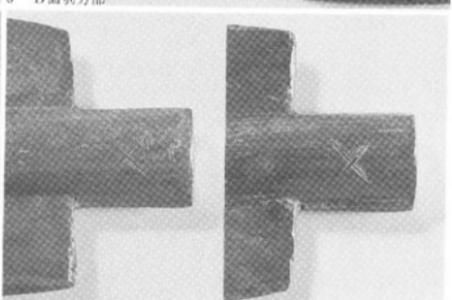
5 B面穂先端部



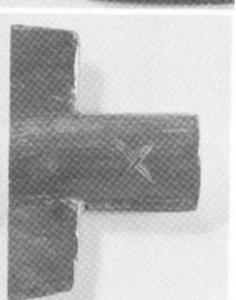
6 B面剣方部



7 × 印刷印作業



8 A面×印刷印



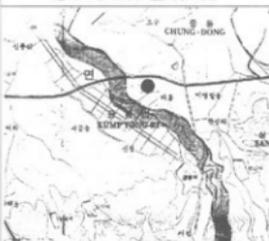
9 B面×印刷印

第2章 青銅器埋納遺跡調査表

島根県教育委員会は荒神谷遺跡報告書作成事業の一環として、神庭荒神谷遺跡関連資料並びに青銅器出土遺跡の調査を実施した。その趣旨は、神庭荒神谷遺跡出土青銅器と同型式あるいは関連する資料を調査し、併せてその出土地点を踏査することで、青銅器の出土地点や出土状況を再確認し、比較検討して神庭荒神谷遺跡及び出土青銅器の特徴を正確に把握しようというものである。実際に調査対象としたのは神庭荒神谷青銅器と同型式の銅剣、銅矛、銅鐔ないし複数器種、複数埋納の青銅器で、各地の研究者の協力を得て調査した遺跡は1991年から1995年までの5年間で、西日本の16府県100遺跡余りにのぼった。この調査表は、調査した遺跡の立地や青銅器の出土状況などを、その時の調査カードを基に写真を交えて報告するものである。

凡 例

1. この調査表に掲載した遺跡は、神庭荒神谷遺跡出土青銅器に関連する青銅器を出土した遺跡のうち、報告書作成事業実施中に調査できた遺跡のみを掲載した。
2. 表中の「番号」は付編第3章の青銅器地名表の遺跡番号と同一である。(鐔)は銅鐔地名表を、(武)は武器形青銅器地名表を表す。「所在地」はなるべく現在の住所表示に合わせた表記を行った。
3. 「所有者」並びに「保管場所」については判明しているもののみ記入した。「文献」はなるべく初出のもの、出土状況の詳しいもの一瞥のみとし、その他は付編第4章の文献一覧にまとめて掲載した。
4. 上林里遺跡以外の「遺跡の位置図」は国土地理院発行の5万分の1の地図に遺跡の位置を落したものである。「遺跡写真」の遠景写真には青銅器の出土地点を矢印で示した。埋納坑の確認された遺跡については「備考」に埋納坑の実測図を掲載した。また、現地に行っていた方を「備考」に記した(敬務略)。

番 号	遺跡名	所在地	発見年
青銅器の 種 類	銅剣 中国式銅剣A型(桃氏劍)26	立 地 発見の経緯	全羅北道完州郡 伊西面上林里
	銅鐔		発見年 1975年
	銅矛		所有者 国立全州博物館 保管場所 国立全州博物館 遺跡 遺跡 指定の状況 遺物
伴出遺跡	なし	出土状況	文 献
遺跡の位置図(金州市地図)		遺 跡 写 真	備 考
			銅剣は鋳造後の研磨なし。柄部、刃部等に鑄造痕そのまゝ残る。 同行者 全榮宗
		調査年月日	1994年3月24日
		調査者	尾立克己

第2章 青銅器埋納遺跡調査表

番 号	(例) 福井3 遺跡名	井向遺跡	所在地	福井県坂井郡春江町向島田	発見年	1868年
青銅器の 種 類	銅剣	2区(成いほ3区) ①外線付録1式 二・三区流木文 ②外線付録2式 三区流木文 ③外線付録2式 三区流木文	立 地	丸瀬川支流で福井平野を流れる武蔵川の田自然堤防上。	所有者	①京高考古資料館 ②高田重助 ③明治大学考古学研究室
	保管所					①京高考古資料館 ②高田重助 ③明治大学考古学研究室
	銅矛		発見の経緯	懸縁作業中発見。	指定の状況	遺跡 遺物 国宝 (①のみ)
伴出遺物	なし		出土状況	下縁部を接してほぼ水平に埋められていた。	文献	梅原本治『銅剣の研究』1927年
遺跡の位置図(三国・福井)			遺跡写真		備 考	
					同行者 富山正明	
					調査年月日	1994年2月28日
					調査者	足立克己・勝瀬利栄
番 号	(例) 福井5 遺跡名	米ヶ崎遺跡	所在地	福井県坂井郡三国町米ヶ崎	発見年	1926年
青銅器の 種 類	銅剣	外線付録2式四区製成専文 1	立 地	丸瀬川河口に広がる標高約30mの安山岩台地上。	所有者	三国町
	保管所					みくに龍明館
	銅矛		発見の経緯	京福電鉄三国芦原線敷設工事中、田原寿坊口駅付近で発見と伝わる。	指定の状況	遺跡 遺物 県指定有形文化財(考古資料)
伴出遺物	なし		出土状況	不明	文献	印旛邦雄「坂井郡雄島村米ヶ崎出土の新銅剣について」『福井県文化財調査報告』1951年
遺跡の位置図(三国)			遺跡写真		備 考	
					日本海側で最北端の出土地。 同行者 富山正明	
					調査年月日	1994年2月28日
					調査者	足立克己・勝瀬利栄

番 号	(錐) 大坂10	遺跡名	おとこみま 思智屋内山遺跡	所 在 地	大坂府八尾市思智屋内山	発見年	1921年	
青銅器の 様 類	銅剣	銅鐔	外縁部2式二区底水文 1	銅矛	立 地	生駒山地南部の西に開いた小谷の斜面部。出土地点は標高70~80mと推られるが特定できない。	所有者	東京国立博物館
					発見の経緯	山崩れによる。	保 管 所	東京国立博物館
伴出遺物				出土状況		指定の 状 況	遺跡 遺物	
遺跡の位置図(大坂東南部)				遺跡写真		備 考		
						同行者 成海隆子		
						調査年月日	1992年1月27日	
						調 査 者	沢辺貞幸・柳浦俊一	

番 号	(錐) 大坂33	遺跡名	おとこみま 跡部遺跡	所 在 地	大坂府八尾市春日町1丁目45-1	発見年	1988年	
青銅器の 様 類	銅剣	銅鐔	扁平式底水文 1	銅矛	立 地	沖積平野段高地	所有者	八尾市教育委員会
					発見の経緯	下水道工事に伴う発掘調査	保 管 所	八尾市教育委員会
伴出遺物	土器片、銅鐔 (埋納時期は中期末以降、後期末以前)			出土状況	埋納坑に櫛を立てて積位で出土。	指定の 状 況	遺跡 遺物	
遺跡の位置図(大坂東南部)				遺跡写真		備 考		
								
						調査年月日	1992年1月27日	
						調 査 者	沢辺貞幸・柳浦俊一	

第2章 青銅器埋納遺跡調査表

番 号	(銅)兵庫1	遺跡名	気比遺跡	所 在 地	兵庫県豊岡市気比港口	発見年	1912年	
青銅器の埋納類	銅剣	銅鐔1号	外縁付鍔2式2区 流水文	立 地	気比川河口部に突出する尾根の先端山腹。	所有者	文化庁	
	銅鐔	銅鐔2号	外縁付鍔2式2区 流水文			発見の経緯	石材採取時に発見。	保管場所
	銅剣	銅鐔3号	外縁付鍔1式縦線 四区流水文	指定の状況	遺跡 市指定 遺物 重要文化財			
	銅剣	銅鐔4号	外縁付鍔2式2区 流水文	伴出遺物	なし	出土状況	高さ4m程度の巨岩の裏側の間隙石をもつ岩穴から出土。銅鐔4個を横を立てて置いた。その下に径1~2寸の河原石と貝殻(カキ及びヒナ類)を置く。覆土4~5尺(120~150cm)。	文 献
遺跡の位置図(城崎)				遺跡写真		備 考		
						<ul style="list-style-type: none"> ○3号の銅型が淡木市東条貞電鋳から出土 ○4号は陶器器と同属 ○出土状況については埋納方法が古代のものではないと察測視するものが多い ○岩穴は南北幅2尺4~5寸(72~75cm) ○奥行5~6尺(150~180cm) ○間隙石は幅5尺、高さ5尺、厚さ1尺(150×150×30cm) 同行者 瀬戸谷皓		
						調査年月日	1993年2月1日	
						調査者	足立克己・広江裕史	

番 号	(銅)兵庫13	遺跡名	栗野中ノ御堂遺跡	所 在 地	兵庫県三原郡西淡町松帆	発見年	1686年
青銅器の埋納類	銅剣	外縁付鍔1式四区装束碑文 1	発見の経緯	立 地	西に帯雲龍を臨む伏丘陵先端部緩斜面。	所有者	日光寺
	保管場所					日光寺	
	指定の状況					遺跡 遺物	
	伴出遺物	銅舌	出土状況	3個または8個出土したという。	文 献	梅原未治『銅鐔の研究』1927年	
遺跡の位置図(河本)				遺跡写真		備 考	
						栗野松旛(外縁付鍔1式4区装束碑文)、淡路島内の個人蔵持もここからの出土と推定。 8個同時埋納かどうかは判別あり。また、否も1個と数えた可能性もある。 同行者 浦上雅史	
						調査年月日	1992年1月25日
						調査者	渡辺貞幸・梅崎俊一

番 号	(図) 兵庫17	遺跡名	主要 出土遺物	所 在 地	兵庫県三原郡緑町佐文庄田字藪尾	発見年	1959年
青銅器の 種 類	銅剣	銅鐔 外縁付鈕2式二区流水文 1	銅矛	立 地	山腹(標高かなり高い位置)。南西方に広がる三原平野からは完全に目隠し状態の位置にあたる。	所有者	文化庁
				発見の経緯	牧草地造成中に発見。	保 管 所	東京国立博物館
伴出遺物				出土状況		指定の 状 況	遺跡 遺物
遺跡の位置図(訓本・由良)				遺跡写真		備 考	
						出土地は原地形とあまり変わっていないが、恩智畑内山、神戸木ノ根と同様。 同行者 浦上雅史	
						調査年月日	1992年1月25日
						調 査 者	深辺貞幸・柳浦俊一

番 号	(図) 兵庫29	遺跡名	主要 出土遺物	所 在 地	兵庫県神戸市東灘区住吉町藪ヶ森	発見年	1934年
青銅器の 種 類	銅剣	銅鐔 屈平鍔式四区製装禰文 1	銅矛	立 地	住吉川の支流、西谷川の間の谷の南東斜面に立地。現在は団地の一部で、原地形は失われている。	所有者	東京国立博物館
				発見の経緯	施設建設	保 管 所	東京国立博物館
伴出遺物				出土状況		指定の 状 況	遺跡 遺物
遺跡の位置図(大阪西北部)				遺跡写真		備 考	
						同行者 喜谷英宣・森田稔	
						調査年月日	1992年1月24日
						調 査 者	深辺貞幸・柳浦俊一

第2章 青銅器埋蔵遺跡調査表

番号	(碑) 長徳33	遺跡名	坂ヶ丘遺跡	所在地	兵庫県神戸市塚ヶ丘町	発見年	1964年
青銅器の種類	銅剣 外縁付紐1式 銅鐙 # 2式 銅平紐式 銅文 大取用型銅文7	#	#	立地	山頂よりやや下った斜面。	所有者	神戸市立博物館
						保管場所	神戸市立博物館
						指定の状況	遺跡 遺物 国宝
伴出遺物	なし	出土状況	発見者の証言から、軸を上下にして置かれており、6号鐙のみが鍔を水平にして置かれていたと推定される。銅文はその6号鐙の裏側にやや離れて置かれた3個の下から出土。	文献	『坂ヶ丘銅鐙・銅文』塚ヶ丘銅鐙・銅文調査委員会 1969年		
遺跡の位置図(神戸)				遺跡写真		備考	
						同行者 喜谷美宣・森田徳	
						調査年月日 1992年1月24日	
						調査者 阪田貞幸・柳浦俊一	

番号	(碑) 長徳37	遺跡名	野々間遺跡	所在地	兵庫県水上郡春日町野上野野々間	発見年	1981(昭和56)
青銅器の種類	銅剣 銅鐙 1号銅鐙 外縁付紐2式四区装束銅文 2号銅鐙 銅平紐式四区装束銅文 銅矛	#	#	立地	春日盆地に向かって伸びる妙見山の尾根の先端部。平拓部からの北高は10m前後。	所有者	春日町教育委員会
						保管場所	春日町歴史民俗資料館
						指定の状況	遺跡 県指定史跡 遺物 県指定文化財(考古資料)
伴出遺物	なし	出土状況	山道沿いの畑面で自然露掘りをしていて発見。 南北3m以上、東西約3.5mの平面不整形を呈するテラス状の2基の埋納部に底面から高い位置に、1号鐙は直立、2号鐙は鍔を水平にして鍔を高くして置く。	文献	兵庫県水上郡春日町『野々間遺跡』1990年		
遺跡の位置図(備前)				遺跡写真		備考	
						○埋納順序は2号鐙の次に1号鐙が埋納 ○溝まわりが厚く、表面がなめった状態	
						調査年月日 1993年2月2日	
						調査者 足立克己・広江耕史	

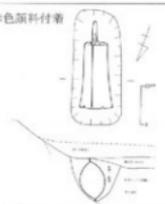
番 号	(器) 兵隊38	遺跡名	あしあひらの女代神社遺跡	所 在 地	兵庫県豊岡市九日市蓮ノ下	発見年	1991年
青銅器の 種 類	銅剣	銅鐔 突線鉾2式(破片) 1	銅矛	立 地	円山川が形成した沖積地に流れ出る小支流が形成する扇状地の先端部	所有者	豊岡市教育委員会
	発見の経緯			豊岡市下水道築造の「八条1号埋水幹線整備工事」現場で工事のあがりの中から発掘	保管場所	豊岡市郷土資料館	
伴出遺物	土器片	出土状況				指定の状況	遺跡 遺物
遺跡の位置図(地籍)				遺跡写真		備 考	
						○発掘されたと考えられている。同行者 瀬戸谷皓	
						調査年月日 1993年2月1日 調査者 足立克己・広江精史	

番 号	(武) 兵隊1	遺跡名	ひら松遺跡	所 在 地	兵庫県佐用郡南光町平松	発見年	1887年頃
青銅器の 種 類	銅剣 中形形b類1	銅鐔	銅矛	立 地	千種川の西岸、通称ブドウ山(標高200m)の急峻な山麓	所有者	天一神社
	発見の経緯			石取り場の採石中?	保管場所	毎年の年番宅	
伴出遺物	不明	出土状況			「極み石の下」より発見(島田1926年による)	指定の状況	遺跡 県指定文化財(考古資料)
遺跡の位置図(佐用)				遺跡写真		備 考	
						同行者 植定淳介	
						調査年月日 1994年3月1日 調査者 平野芳美・天道年弘	

番 号	(武) 兵庫 7	遺跡名	甲山遺跡	所在地	兵庫県西宮市甲山	発見年	1970年
青銅器の 種類	銅剣 銅鐙 銅子	英形銅文 1	発見の経緯	登山者発見	六甲山麓東端にある独立峰の山頂(中央よりやや南寄り) 南方・東方の眺望は時にすばらしい。	所有者	西宮市教育委員会
						保管所	西宮市教育委員会
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし	出土状況				武庫遺「銅剣の新資料——甲山から出土した銅剣について」『西宮文化』17号 1971年	
遺跡の位置図(大坂西北部)				遺跡写真		備 考	
						同行者 合田茂博	
						調査年月日 1992年1月26日	
						調査者 渡辺貞幸・梅浦俊一	

番 号	(武) 兵庫 8	遺跡名	古津路遺跡	所在地	兵庫県姫路市西淡町松帆古津路	発見年	1966年
青銅器の 種類	銅剣 銅鐙 銅子	中細形銅剣も類 13	発見の経緯	土葬採取工事中発見	砂丘上。本来は自然堤防上の微高地か。	所有者	文化庁
						保管所	国立歴史民俗博物館
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし	出土状況	不明。			文 献 武庫遺・三木文雄「三原郡西淡町古津路出土の銅剣」『阪大丘銅器調査』1960年	
遺跡の位置図(鳴門海峡)				遺跡写真		備 考	
						同行者 村上肇史	
						調査年月日 1992年1月25日	
						調査者 渡辺貞幸・梅浦俊一	

第2章 青銅器埋納遺跡調査表

番 号	(器) 遺跡名	所在地	発見年
奈良17	大福遺跡	奈良県桜井市大字大福820	1985年
青銅器の 種 類	銅剣	立 地 厨状地（2号方形銅遺跡の溝の内側に存在）	所有者 桜井市教育委員会
	銅鐔 突縁紐1式型装神文 1		保管所 桜井市埋蔵文化財センター
伴出遺物	銅子	発見の経緯 小学校造成に伴う発掘調査中発見	遺跡 指定の状況 遺物 県指定有形文化財（考古資料）
	銅鐔に直接伴うものはないが、方形銅遺跡の造営と関係出土遺物から、銅鐔の時期は弥生時代終末～縄文1式期。	出土状況 埋納坑（長径56cm、短径25cm、深さ18cm）の中に遺物を下にして置く	文 献 桜井市教育委員会「大福遺跡・大福小学校地区一発掘調査概要」1987年
遺跡の位置図（桜井）		遺跡写真	備 考
			<p>銅身に赤色原料付着</p> 
			調査年月日 1994年2月23日 調査者 東森市長・西尾克己

番 号	(器) 遺跡名	所在地	発見年
鳥取1	八幡銅鐔出土地	鳥取県東伯郡八幡字熊王	1961年
青銅器の 種 類	銅剣	立 地 日本海が望める標高30mの低丘陵先端部	所有者 高津義家
	銅鐔 斜平鍔式四区装束神文 1		保管所 京都国立博物館
伴出遺物	銅子	発見の経緯 不詳	遺跡 指定の状況 遺物 県指定保護文化財（考古資料）
		出土状況 不詳	文 献 『鳥取県史蹟踏査調査報告書』第二冊 鳥取県 192年
遺跡の位置図（赤崎・大山）		遺跡写真	備 考
			同行者 野田久男・大賀雄治
			調査年月日 1993年3月3日 調査者 東森市長・西尾克己

番号	(標) 鳥取2	遺跡名	所在地	発見年	1897年	
青銅器の種別	銅剣	銅鐔 外縁付紐式四区装束棒文 1	立地	谷部の低丘陵の山裾	所有者	現存せず
	銅矛		発見の経緯	閑坐中発見	保管場所	
伴出遺物		直食の縄文には銅鐔の横1mから土器が出土しているという。弥生後期土器が古式土器と考えられるが、銅鐔との関係は、はっきりしない。	出土状況		指定の状況	遺跡 遺物
遺跡の位置図(倉吉)			遺跡写真		備考	
					同行者 野田久男	
					調査年月日 1993年3月3日	
					調査者 東藤市良・西尾克己	

番号	(標) 鳥取3	遺跡名	所在地	発見年	1933年	
青銅器の種別	銅剣	銅鐔 外縁付紐1式二区流水文 1	立地	日本海を望む標高78mの尾根上に位置する。	所有者	東京国立博物館
	銅矛		発見の経緯	閑坐中発見	保管場所	東京国立博物館
伴出遺物	銅斧 2		出土状況		指定の状況	遺跡 遺物 国重要文化財(銅舌とも)
遺跡の位置図(青谷)			遺跡写真		備考	
					現在の正式な遺跡名称は「池ノ谷第2遺跡」。合計5個の同范銅鐔が明らかしている。	
					同行者 野田久男	
					調査年月日 1993年3月3日	
					調査者 東藤市良・西尾克己	

第2章 青銅器埋納遺跡調査表

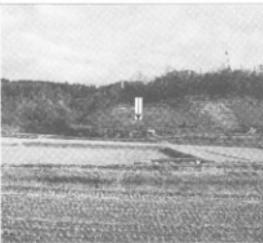
番 号	(跡) 鳥取4	遺跡名	小田新銅出土地	所 在 地	鳥取県倉吉市小田字樋ノ口	発見年	1947-1948年頃
青銅器の 種 類		銅剣 銅鐔 外縁付鍔2式四区装束文 1 扇平直式六区装束文 1 銅矛		立 地	平野に突出した標高40mの丘陵先端。	所有者	足羽弘研(外縁付鍔2式) 倉吉市(扇平直式)
						保管所	倉吉市立倉吉博物館
						遺跡	
						指定の状況	遺物 県指定保護文化財(考古資料)
伴出遺物	なし	出土状況		文 献	谷田龜寿「弥生時代」倉吉市誌、1956年		
遺跡の位置図(倉吉)				遺跡写真		備 考	
						名越助氏同行	
						調査年月日	1993年3月3日
						調査者	東塚市良・西尾克己

番 号	(跡) 鳥取10	遺跡名	下坂新銅出土地	所 在 地	鳥取県八頭郡那家町下坂字東長平	発見年	1912年9月26日
青銅器の 種 類		銅剣 銅鐔 外縁付鍔2式四区装束文 1 銅矛		立 地	ヒダ状の丘陵地の斜面	所有者	鳥取県立博物館
						保管所	鳥取県立博物館
						遺跡	
						指定の状況	遺物
伴出遺物	なし	出土状況	山くずれの赤土中からの採集。	文 献	『那家町誌』1969年		
遺跡の位置図(若桜)				遺跡写真		備 考	
							
						調査年月日	1993年3月10日
						調査者	内田律雄・久家俊夫

番号	(銅) 鳥取11	遺跡名	高住銅器出土地	所在地	鳥取県鳥取市高住地内	発見年	1936～1938年頃	
青銅器の種類	銅剣	銅鐔 扁平笠式一区流水状 1	銅矛	立地	丘陵斜面	発見の経緯	所有者	森本勘夫
	保管所						鳥取市立郷土民俗資料館	
伴出遺物	なし	出土状況	丘陵斜面から掘り出す。	鑑定状況	遺跡	遺物	文献	鳥取県教育委員会『鳥取県文化財調査報告書』第一集 1960年
遺跡の位置図(鳥取南部)				遺跡写真		備考		
						伝出土地は発見者がすでに亡くなっており、『北野神社南方の谷』という他には不明となっている。被埋地は三箇所あり(うち、一箇所は宇宮ノ谷)。		
						調査年月日	1995年3月11日	
						調査者	内田律雄・久家儀夫	

番号	(銅) 鳥取12	遺跡名	新井銅器出土地	所在地	鳥取県岩美郡岩美町新井上屋敷	発見年	1950年	
青銅器の種類	銅剣	銅鐔 外縁付籠2式二区流水状 1	銅矛	立地	丘陵南傾斜面	発見の経緯	所有者	文化庁
	保管所						京都国立博物館	
伴出遺物	なし	出土状況	梨園造成中に掘り出す。	鑑定状況	遺跡	遺物	文献	三木文雄『流水文銅器の研究』1974年
遺跡の位置図(浜坂)				遺跡写真		備考		
						塚ヶ丘3号跡と同范		
						調査年月日	1993年3月11日	
						調査者	内田律雄・久家儀夫	

第2章 青銅器埋納遺跡調査表

番号	(銅) 遺跡名	経路遺跡	所在地	発見年	
青銅器の 種類	銅剣	外縁付紐2式二区流水文1	立地	1959-1960年	
	銅鐔			鳥取県立博物館	
	銅矛		発見の経緯	鳥取県立博物館	
	指定の状況		遺跡 遺物 県指定保護文化財(考古資料)		
伴出遺物	なし。	出土状況	地表下2~3尺のところまで掘り出した。あるような板石の下から出土。	文献	三木文雄『流水文銅鐔の研究』1974年
遺跡の位置図(鳥取南部)			遺跡写真	備考	
				同行者 平川 敏	
				調査年月日 1991年12月9日	
				調査者 松本岩雄・尾克己	

番号	(銅) 遺跡名	経路遺跡	所在地	発見年	
青銅器の 種類	銅剣	小銅鐔 1個	立地	1930-1931年頃	
	銅矛			発見の経緯	
	指定の状況		遺跡 遺物		
	伴出遺物		なし。	出土状況	不明。
遺跡の位置図(倉吉)			遺跡写真	備考	
				同行者 名瀬 勉	
				調査年月日 1993年3月3日	
				調査者 東原山良・西尾克己	

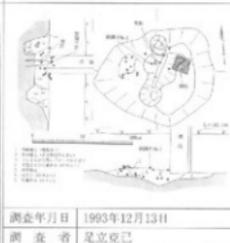
番 号	(武)鳥取1	遺跡名	イヌノ横瀬期出土地	所在地	鳥取県東伯耆郡東伯町大字油越井岡地原	発見年	1910年頃
青銅器の 種類	銅剣	中細形c類 2 (もと4)		立 地	日本海が望める標高80mの低丘上。	所有者	東伯町教育委員会
	保管 場所					東伯町教育委員会	
	指定の 状況					遺跡 遺物 町指定文化財(考古資料)	
伴出遺物				出土状況	倉光清六氏報告によると箱式石棺の 下30cm出土という。	文 献	倉光清六「信曹八幡町銅剣山上 遺跡」『考古学雑誌』23-4 1933 年

遺跡の位置図(大山)		遺跡写真		備 考	
				<p>詳細のみ現存 同行者 野田久男・大賀尚浩</p>	
				調査年月日	1993年3月1日
				調査者	東森市良・西尾克己

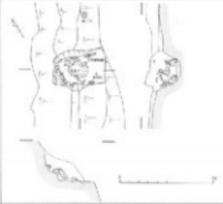
番 号	(武)鳥取2	遺跡名	イヌノ横瀬期出土地	所在地	鳥取県鳥取市西大路字土居	発見年	1991年
青銅器の 種類	銅剣	中細形銅剣b類1 (銅身下半のみ)		立 地	鳥取平野の南東部、標高105mの独立 丘陵の北西斜面裾の傾斜地に位置す る。	所有者	鳥取市教育委員会
	保管 場所					鳥取市教育委員会	
	指定の 状況					遺跡 遺物	
伴出遺物	なし			出土状況	弥生時代後期後半を上流とした土器 小片を含む暗褐色粘質土中から銅を 水平にした状態で出土。	文 献	財団法人鳥取市教育福祉振興会 『西大路土居遺跡』1993年

遺跡の位置図(鳥取南部)		遺跡写真		備 考	
				<p>調査年月日 1991年12月8日 調査者 松本岩雄・足立克己</p>	

第2章 青銅器埋納遺跡調査表

番号 (群) 鳥根1	遺跡名 中野仮祀遺跡	所在地	鳥根郡邑智郡石見町中野仮塚4133	発見年	1914年
青銅器の 種類	銅劍	立地	江の川支流湖川上流の砂浜地趾の北東部に位置し、高い山の下に発達した南向きの高台の一部。	所有者	東京国立博物館
	銅鐸 扁平鉈式六区装嵌摩文1 装嵌鉈1式一区流水文1			保管場所	東京国立博物館
	銅矛			発見の経緯	畑の圃墨中に地表下60cm会りのところに2個横たわって出土したという。
伴出遺物	なし	出土状況	1989年出土地点の発掘調査が実施され、埋納坑と銅鐸の破片が確認されたが、新知見は得られていない。	文献	『鳥根郡史』1914年
遺跡の位置図(国本)		遺跡写真		備考	
					
				調査年月日	1993年12月13日
				調査者	足立克己

番号 (群) 鳥根2	遺跡名 城山遺跡	所在地	鳥根県浜田市上府町城山一ノ界	発見年	1924・25年
青銅器の 種類	銅劍	立地	下府川に面した標高80m前後の丘陵上で、急斜面を上がって緩かくなった九合目あたり。下府の沖積地からは裏側にある。	所有者	東京国立博物館
	銅鐸 扁平鉈式四区装嵌摩文2 (残欠1)			保管場所	東京国立博物館
	銅矛			発見の経緯	粘土採取中2回にわたって出土。(直良信夫 1932年による)
伴出遺物	なし	出土状況	2個の出土地点は20~30cm離れていたといい、どちらも鋤を上にして直立した状態で出土したという。	文献	高橋直一「石見新発見の銅鐸に就いて」『考古学雑誌』18-7 1928年
遺跡の位置図(浜田)		遺跡写真		備考	
				1号銅鐸(残欠)は出土当時足形に近かったが、錆びて朽ちてしまったという。	
				調査年月日	1994年10月11日
				調査者	足立克己

番 号	(銅) 鳥組3	遺跡名	志谷真遺跡	所在地	島根県八束郡能島町大字佐陀本郷字 志谷真2338	発見年	1973年
青銅器の 種 類	銅剣	中継形銅剣C類6	立 地	朝日山から古浦砂丘の後背地に向か って誕生した支丘が形成する狭隘な 谷の東向き斜面中段に立地。	所有者	文化庁	
	銅鐔	外地付銀2式四区契定準文 扁平四式西区契定準文 1				保管 場 所	島根県立八雲立つ風土記の丘資 料館
	銅矛		発見の経緯	柿の木に施肥しようとして穴を掘っ たところ出土。	指定の 状 況	遺跡 遺物	
作出遺物	なし		出土状況	1975年の発掘調査で埋納品を確認。 銅鐔2個を銀を下にして置き、その 上に銅剣6本を鋒を下に向けて並べ る。	文 献	島根県能島町教育委員会『志谷 真遺跡』1976年	
遺跡の位置図(部替)				遺 跡 写 真		備 考	
							
				調査年月日		1994年12月12日	
				調 査 者		足立克己	

番 号	(武) 鳥組1	遺跡名	真名井遺跡	所在地	島根県松江郡大社町竹原東真名井命 神社境内	発見年	1665年
青銅器の 種 類	銅剣		立 地	島根半島北山山系の南麓に位置し、 龜山の急斜面の裾に立地する。	所有者	出雲大社	
	銅矛	銅文 中継形も類1				保管 場 所	出雲大社
			発見の経緯	出雲大社真文造営の際、命主社付近 の石の切り出し作業中に発見。	指定の 状 況	遺跡 遺物 国指定重要文化財	
作出遺物	硬玉製勾玉1		出土状況	詳細不明。	文 献	近藤正「鳥組郡下の青銅器につ いて」、『鳥組県文化財調査報告』 第二集 1966年	
遺跡の位置図(大社)				遺 跡 写 真		備 考	
						依草自濟が記した「命主社神跡出現之記」 や「御霊當日記」によれば、 寛文5年8月8日三つに折れた朝 岡年9月13日 鉾と背き玉 寛文6年4月6日 はこ 同年4月7日 はこ(長さ二尺) の計4本の武器形が出土し、衝文は9月 13日のものと考えられる。	
				調査年月日		1993年9月22日	
				調 査 者		足立克己	

第2章 青銅器埋納遺跡調査表

番 号	(武) 島根2	遺跡名 伝横田八幡宮銅剣 出土地	所在地	島根県仁多郡横田町大字中村	発見年	伝1280年
青銅器の 種 類	銅剣	中細形銅剣C類1	立 地	横田畝地に面した矢状の丘陵にあり、両側は谷になっている。畝地全体が一望できる眺望の極めて良好なところ。	所有者	横田八幡宮
	銅鏃				保管所	島根県立八雲立つ風土記の丘資料館
伴出遺物	不明。		出土状況	不明。	指定の状況	遺跡 県指定有形文化財(考古資料)
					文献	近藤正「島根県下の青銅器について」『山陰古代文化の研究』1978年
遺跡の位置図(横田)			遺跡写真		備 考	
					同行者 木山久利	
					調査年月日	1992年1月18日
					調査者	藤部昭・羽永者三・足立克己
番 号	(武) 島根4	遺跡名 竹田遺跡	所在地	島根県隠岐郡海士町海士3817	発見年	1968年
青銅器の 種 類	銅剣	中細形銅剣B類1 (銅身下半)	立 地	調査川が形成した沖積地の北辺の低丘陵南斜面。	所有者	隠岐郡海士町教育委員会
	銅鏃				保管所	島根県立八雲立つ風土記の丘資料館
伴出遺物	九重式土器(甕・高坏・器台)、石器、鉄槍		出土状況	溝状遺構内	指定の状況	遺跡 海士町指定文化財(史跡) 遺物 〃 (考古資料)
					文献	藤部昭「出雲・隠岐発見の青銅器」『古文化叢書』8 1981年
遺跡の位置図(浦町)			遺跡写真		備 考	
					1970年3月の日本考古学協会青銅器部会の発掘調査により溝状遺構内から出土と判明。	
					同行者 高橋 弘	
					調査年月日	1992年11月17日
					調査者	藤部昭・三宅博士

番 号	(郷) 岡山1	遺跡名	備中呉織遺跡	所在地	岡山県吉備郡真備町大字妹地の上字梨ノ木1377番地	発見年	1915年
青銅器の 種 類	銅剣	銅鐔 突刺鉞2式六区流水文 銅矛	発見の経緯	立 地	船木川支流小田川に流れ込む骨谷川の西側に展開する平野(微高地)。遺地は遺跡に含まれる。遺跡附近には兼重・田山隧道がある。東には高河大塚も存在する。	所有者	東京国立博物館
	保管場所					東京国立博物館	
	指定の状況					遺跡 遺物	
伴出遺物		出土状況	銀を南東に向け、横向きに出土。	文 献	藤原吉松「備中呉織銅剣発掘地調査報告」考古学雑誌8-2 1917年		
遺跡の位置図(玉島)				遺 跡 写 真		備 考	
						標柱あり ただし現在の標柱は農作業の支障になる為、別の場所に移設した。 同行者 亀山行雄・岡田 博	
						調査年月日	1993年3月9日
						調査者	下郡吉博・今岡一三

番 号	(郷) 岡山2	遺跡名	兼安山フカタ地の 上寺屋敷遺跡	所在地	岡山県井原市下稻木兼安字明見	発見年	伝1797年
青銅器の 種 類	銅剣	銅鐔 扁平鉞2式六区装束文 1 銅矛	発見の経緯	立 地	船木川流域に広がる狭長な平野の北側に張り出した南北にのびる丘陵上、標高約100m附近。明見銅鐔の北側に標高も若干高い。	所有者	今村保彦
	保管場所					不明	
	指定の状況					遺跡 遺物	
伴出遺物		出土状況	不明。	文 献	梅原末治「銅鐔の研究」1927年		
遺跡の位置図(井原)				遺 跡 写 真		備 考	
						窪田定氏の所蔵銅鐔(「銅鐔の研究」)として登場。その後、梅原の研究によって「下稻木村兼安山フカタ地の上寺屋敷出土」として認識される。 東洋文庫に納められている区画図と比較すると、標高に於ては若干異なるが、よく似ている。 明見遺跡の斜面上方30mのところ。 同行者 亀山行雄・岡田 博	
						調査年月日	1993年3月9日
						調査者	下郡吉博・今岡一三

第2章 青銅器経納遺跡調査表

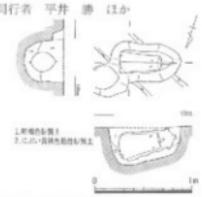
番号	(郷) 岡山3	遺跡名	岡山県 瀬戸森遺跡	所在地	岡山県井原市木之子町黒岩	発見年	1945年または1946年
青銅器の 種類	銅剣	銅剣 扁平紐式十二区装束帯文 1 銅矛	発見の経緯	立地	小田川とその支流福木川にはさまれた標高約120mの丘陵頂部からやや下ったところ。積層良好。	所有者	阪馬考古資料館
	保管場所					阪馬考古資料館	
	指定の状況					遺跡 国重要文化財 遺物 国重要文化財	
伴出遺物			出土状況	地表下20cmのところに露頭を土に向けて45度の傾きで埋まっていた。	文献	梅原未治「岡山県下発見の銅剣」『古蹟考古』第83号 1951年	
遺跡の位置図(井原)				遺跡写真		備考	
						同行者 橋 真治	
						調査年月日	1994年2月24日
						調査者	柳道俊一・岩永省三

番号	(郷) 岡山3	遺跡名	岡山県 蒙基鳥取山	所在地	岡山市蒙基地内	発見年	(1回目) 1911年 (2回目) 1955年頃 (3回目) 1956年4月24日
青銅器の 種類	銅剣	銅剣 (1回目) 不明 高1尺4寸5分 (2回目) 不明 高1尺2寸3分 (3回目) 扁平紐式六区装束帯文 銅矛	発見の経緯	立地	鳥取山と笠井山に架まれた北に開口する谷の奥まった部分の斜面(東・南・西)3箇所から出土。 [岡山市の遺跡地区と、梅原論文では「出土場所に若干のちがいがある。」]	所有者	3回目鳥取山のみ現存 岡山県立博物館
	保管場所					岡山県立博物館	
	指定の状況					遺跡 遺物	
伴出遺物			出土状況	不明。	文献	梅原未治「岡山県下発見の銅剣」『古蹟考古』第83号 1951年	
遺跡の位置図(岡山南部)				遺跡写真		備考	
						同行者 平井 勝	
						調査年月日	1993年3月8日
						調査者	山部吉博・今岡一三

番 号	(銅) 岡山15	遺跡名	百枝月遺跡	所在地	岡山県岡山市百枝月西畑	発見年	1972年
青銅器の種類	銅剣	銅鏃 扁平錐式四区装束押文2 小片は外縁付録か	銅矛	立 地	丘陵南斜面 (頂部よりやや下方)	所有者	岡山大学 邑久町郷土資料館
	発見の経緯			耕作中発見。直後に発掘調査。	保管場所	岡山大学 邑久町郷土資料館	
伴出遺物	なし	出土状況	垣納坑内に1個は横位に、1個は立位で出土。	指定の状況	遺跡 遺物	文献	近藤義郎・根本彰「岡山市百枝月発見の銅鏃」『考古学研究』19-4 1973年
遺跡の位置図 (和気)				遺跡写真		備 考	
							
				同行者 橋 真治		調査年月日 1994年2月21日	
						調査者 岩永省三・柳浦俊一	

番 号	(銅) 岡山20	遺跡名	明見銅鏃出土地	所在地	岡山県井原市下福木町兼安宇明見225-2	発見年	1992年
青銅器の種類	銅剣	銅鏃 扁平錐2式六区装束押文1 朱彩	銅矛	立 地	稻木川流域に広がる数段な平野の地割に盛り出した南北にのびる丘陵上南斜面(標高100m、平野との比高約60m)	所有者	個人
	発見の経緯			耕作中(発掘調査により圧痕検出)	保管場所	井原市教育委員会	
伴出遺物	なし	出土状況	環状坑より出土。 「堆積坑の底より浮いた状態で鏃を斜面の上側に向け、鏃を上下にして、ほぼ水平に納められていた。」	指定の状況	遺跡 遺物	文献	岡山県教育委員会 『岡山県稲瀬文化財報告』23 1993年
遺跡の位置図 (井原)				遺跡写真		備 考	
							
						調査年月日 1993年3月9日	
						調査者 土部吉博・今岡一三	

第2章 青銅器埋納遺跡調査表

番号	(群) 遺跡名	遺跡名	所在地	発見年	
青銅器の 種類	銅剣 銅鐔 銅矛	美濃鉄2式三区流木文 Ⅰ (フロヤ調査区) (埋納坑) 或片 Ⅰ (角田調査区) (2次調査層から出土)	所在地	岡山市高塚地内	
			立地	見守川と砂川の合流点の北方250mにある低高地。南1kmに矢部南方遺跡が存在する。	
			発見の経緯	山陽自動車道の建設に伴う発掘調査	
伴出遺物	若干の弥生土器 (流木前半) 銅片が埋納坑の上層から出土。	出土状況	埋納坑。葬身を西南西に置き、鞘が垂直に立つように埋納されていた。坑内は上下2層に分かれており、上層から弥生土器が出土。	指定の状況	遺跡 遺物
遺跡の位置図 (岡山北部)		遺跡写真		備考	
				同行者 平井 勝 ほか  調査年月日 1993年3月8日 調査者 土部吉博・今岡一三	

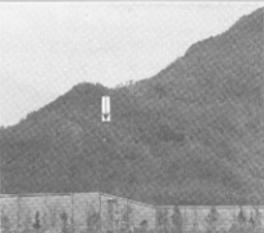
番号	(群) 遺跡名	遺跡名	所在地	発見年	
青銅器の 種類	銅剣 銅鐔 銅矛	福平鉄1式西区装束棒文 Ⅰ	所在地	岡山県岡山市福町137番地	
			立地	河輪平野中央部 (埋納遺跡の範囲内と考えられる)	
			発見の経緯	土地所有者が畑のぼりの柱を立てる為、水田を掘り下げたところ出土。	
伴出遺物	なし	出土状況	鞘を水平にして出土。埋納坑があったかどうか不明。	指定の状況	遺跡 遺物
遺跡の位置図 (岡山北部)		遺跡写真		備考	
				同行者 平井 勝 調査年月日 1993年3月8日 調査者 土部吉博・今岡一三	

番号	(郡) 国山26	電跡名	矢部南向遺跡	所在地	岡山県倉敷市矢部地区内	発見年	1987年
吉備器の 種類	銅剣	銅鐔 小銅鐔 銅矛	発見の経緯	立地	自然地形上の集落跡(足守川流域) この右岸には稲築、瀬吹神社、雲山 島打遺跡等の弥生時代終末期の「須 丘墓」がある。	所有者	岡山県教育委員会
	保管 場所					岡山県古代吉備文化財センター	
	指定の 状況					遺跡 遺物	
伴出遺物	48号住居跡の柱穴からは3個の定形 土器が検出されている一才の町1式	出土状況	48号型穴住居跡、取り床下土層。 土層は直径50cm、深さ30cmの円形。遺跡 は東北東に向く。跡は東麓にあり、跡を 垂直に立てた状況で出土しており、意図 的に埋置されたものと推定。	文献	江見正巳「岡山県倉敷市足守川 矢部南向遺跡出土の小銅鐔につ いて」『考古学雑誌』73-4 1988年		
遺跡の位置図(岡山北部・岡山南部)				遺跡写真	備考		
						同行者	平井 勝
						調査年月日	1993年3月8日
						調査者	土部吉博・今岡一三

番号	(武) 国山1	電跡名	塚山銅剣出土地	所在地	岡山県倉敷市見島茅渚	発見年	1947年
吉備器の 種類	銅剣	宇形 4 不明 1 (現場で紛失)	発見の経緯	立地	北に回く谷の西斜面(附近の展望は よくない)。 現場附近には岩の露頭がある。	所有者	湊合寺 2 倉敷考古館 1 個人 1 紛失 1
	保管 場所					湊合寺 岡山県立博物館	
	指定の 状況					遺跡 遺物	
伴出遺物	なし	出土状況	炭室を作るため、穴を掘って発見。	文献	末永雄造「備前国岡山出土の銅 剣」『考古学雑誌』42-3 1957年		
遺跡の位置図(岡山南部・玉野)				遺跡写真	備考		
						同行者	高橋 寛
						調査年月日	1993年3月10日
						調査者	土部吉博・今岡一三

第2章 青銅器埋納遺跡調査表

番号	(武) 岡山2	遺跡名 岡山遺跡	所在地	岡山県岡山市鞆浦山本庄	発見年	江戸時代
青銅器の 種類	銅剣	細形銅剣1式 1 ほか2本	立地	北向の小さな湾の東端から出土。	所有者	東京国立博物館
	銅鐔	発見の経緯			不明	保管所
	銅矛		指定の状況	遺跡 遺物		
伴出遺物	なし	出土状況	畑中の大石の下から3本出土と伝えられる。	文献	高橋健自『銅鐔銅剣の研究』1925年	
遺跡の位置図(岡山市南部)			遺跡写真		備考	
					元の所有者が国船問屋(?)であったので他地から買い求めた可能性を否定できない。	
					調査年月日	1994年2月24日
					調査者	若水省三・柳渡俊一

番号	(徳) 広島2	遺跡名 福田木の宗山遺跡	所在地	広島市東区福田宇砥が城877-1	発見年	1891年
青銅器の 種類	銅剣	中細形? (西部銅戸内型) 1	立地	太田川支流三郷川南側に独立山塊をなす木ノ宗山の南山麓に位置する。南面に細長い谷がひろがる。	所有者	光町清子
	銅鐔	外縁付鏃式二区横帯文1			発見の経緯	不明
	銅矛	中細形銅矛2類	指定の状況	遺跡 3点とも国重要文化財		
伴出遺物	土器 (発見時に投棄)	出土状況	高さ3~3.5mの巨岩の麓。平石の下から出土。剣と矛は一尺、鏃はさらに三尺はなれて出土。	文献	谷井清一「国所発掘の銅鐔銅剣」考古学雑誌3-10 1913年	
遺跡の位置図(海田市)			遺跡写真		備考	
					同行者 越尾周二・谷口恭子	
					調査年月日	1992年1月16日
					調査者	勝部昭・松本忍雄・若水省三

番 号	(武) 広島5	遺跡名	三郎丸銅剣出土地	所在地	広島県府中市三郎九大平	発見年	1926年	
青銅器の 種 類	銅剣	深掘式変形銅剣 1 [制力のない深掘式 銅は頸まで流し、両端部と 茎の計3ヶ所に穿孔]	立 地	赤田川の中流域の支流、御瀬川が形 成した沖積地に面した山の斜面。	所有者	水野孝(愛知県知多郡美浜町)		
	銅鏃	発見の経緯			石の切取中に発見。	保管 場所	御堂寺(愛知県知多郡美浜町)	
	銅矛	発見の経緯	石の切取中に発見。	指定の 状 況	遺跡 遺物			
伴出遺物	赤飯きの土器(谷に埋藏)	出土状況	巨大な岩石の下の大石にあった空堀に埋めずに横にして置かれていた。				文 献	村上正名「備後国出土の青銅器」 『広島考古研究』1 1959年

遺跡の位置図(附中)

遺 跡 写 真

備 考



硝石という地名は誤りで字大平が正しい。
同行者 土井基司

調査年月日 1994年3月9日
調 査 者 土部吉博・足立克巳

番 号	(武) 広島6	遺跡名	大峰山銅剣出土地	所在地	広島県尾道市久山田町	発見年	1960年	
青銅器の 種 類	銅剣	中楕形銅剣(両部に及孔あり) 1	立 地	大峰山(標高289.6m)の南斜面6合 目付近。	所有者	文化庁		
	銅鏃	中楕形銅鏃(銚葉のみ) 1			発見の経緯	切石作業中。	保管 場所	文化庁
	銅矛	中楕形銅矛 1	発見の経緯	切石作業中。	指定の 状 況	遺跡 遺物		
伴出遺物	青銅器出土地点の西5m下方で弥生 土器小片、その8m上方で炭化物片 (木炭)出土。	出土状況	斜り重なった礎石の上に、土中に埋 められた状態で出土。矛は石に沿っ て斜めに、銅剣は水平に置かれてい た。				文 献	木下忠「尾道市大峰山出土銅剣 銅鏃について」『広島考古研究』 2 1960年

遺跡の位置図(尾道)

遺 跡 写 真

備 考



同行者 森永彰文

調査年月日 1994年3月10日
調 査 者 土部吉博・足立克巳

第2章 青銅器埋納遺跡調査表

番 号	(武) 広島7	遺跡名	ひらきまやま 中山南遺跡	所 在 地	広島県福徳郡治原町中山南森道	発見年	不明
青銅器の 種 類	銅剣	平形銅剣Ⅱ a式1	発見の経緯	立 地	山南川が形成する沖積谷に面した小谷の奥麓の正面大岩の下。(かつて夫婦岩という2m程度の立石があったという)	所有者	日枝神社
	銅鐙	保管所				日枝神社	
	銅矛	指定の状況				遺跡 遺物 1957年県重要文化財指定	
伴出遺物	不明	出土状況	不明	文 献	村上正名「備後出土の青銅器」『広島考古研究』1 1959年		
遺跡の位置図(福山)				遺跡写真		備 考	
						<p>・銅+鉄出土銅剣と同型とされている。 ・日枝神社神立として伝承する。</p> <p>同行者 園尾 裕・佐道弘之</p>	
						調査年月日	1994年3月10日
						調査者	ト部吉博・足立克己

番 号	(武) 広島8	遺跡名	ひらきまやま 銅神寺谷遺跡	所 在 地	広島県福山市箕島	発見年	不明
青銅器の 種 類	銅剣	細形銅剣1 (側身上半のみ、所在不明)	発見の経緯	立 地	箕島は芦田川河口に所在する小島で、遺跡は芦田川に向かう小さな谷の正面奥の丘陵斜面。	所有者	不明
	銅鐙	保管所				不明	
	銅矛	指定の状況				遺跡 遺物	
伴出遺物	なし	出土状況	キツネ岩という大岩があり、その斜面下方で出土したという。	文 献	村上正明「備後出土の青銅器」『広島考古研究』1 1959年		
遺跡の位置図(福山)				遺跡写真		備 考	
						<p>同行者 園尾 裕・佐道弘之</p>	
						調査年月日	1994年3月10日
						調査者	ト部吉博・足立克己

番 号	(武) 広島9	遺跡名	熊ヶ峰遺跡	所在地	広島県福山市熊野町	発見年	1931・1932頃
青銅器の 種類	銅板	銅鐸	銅矛	立 地	赤山・熊ヶ峰山系の西側斜面。正確な位置は全く不明。	所有者	小林光顕
	発見の経緯			松茸狩りの途中に発見	保管場所	小林光顕	
伴出遺物	不明	出土状況	不明	指定の状況	遺跡	遺物	県重要文化財(考古資料)
遺跡の位置図(福山)				遺跡写真		備 考	
						<p>○広島県沼隈郡沼隈町中山南日枝神社出土品と同范とする説あり。 ○断片も1本発見されたが、所在不明。</p> <p>同行者 國尾 裕・佐道弘之</p>	
調査年月日				1994年3月10日		調査者	
						ト部吉博・足立克己	

番 号	(武) 広島10	遺跡名	大田遺跡	所在地	広島県福山市御分町奈良木	発見年	1958年
青銅器の 種類	銅剣	銅鐸	銅矛 中形 1 (鋒部のみ)	立 地	戸田川が神辺平野から福山デルタに出るところで、勸潮山脈が最も月に迫ったあたり。戸田川西方の山脈の最先端部。	所有者	井上美弘
	発見の経緯			岩石を掘り出し中に発見	保管場所	福山市立福山城博物館	
伴出遺物	土器が伴出したらしいが捨てられた。	出土状況	巨大な岩肌露出したところの下	指定の状況	遺跡	遺物	
遺跡の位置図(井原・福山)				遺跡写真		備 考	
						<p>残存長20cm。身軀折損部で3.7cm。 ○脊が空洞なので予と思われる。 ○米と思われる赤色顔料が葉の中に観察されている。</p> <p>同行者 國尾 裕・佐道弘之</p>	
調査年月日				1994年3月10日		調査者	
						ト部吉博・足立克己	

第2章 青銅器埋納遺跡調査表

番 号	(跡) 遺跡名	所在地	発見年
徳島9	田村谷銅器出土地	徳島県阿南市山口町字末広	1911年
青銅器の 種 類	銅剣	立 地 丘陵東側斜面（比高25～30m）	所有者 田村徳太郎
	銅鐔 突縁紐式六区流水文 1		保管 場所 徳島県立博物館
	銅矛		指定の 状況 遺物（国指定重要文化財（1962年2月2日））
伴出遺物	なし	出土状況 銅剣を上にして山の傾斜面に逃ようにやや斜めに埋設していたと推定される。	文 献 梅原末治『銅鐔の研究』1927年
遺跡の位置図（阿波高岡）		遺跡写真	備 考
			同行者 阿部重司
			調査年月日 1993年3月3日
			調査者 宮澤明久・穴道年弘

番 号	(跡) 遺跡名	所在地	発見年
徳島13	徳島市銅器出土地	徳島県阿南市柿町曲り	1921年
青銅器の 種 類	銅剣	立 地 海を望む北側斜面中腹。 （L一約10m）	所有者 1号鐔（松浦尚雄） 2号鐔（辰馬悦深）
	銅鐔 突縁紐式六区流水文 2		保管 場所 1号鐔（徳島県立博物館） 2号鐔（辰馬考古資料館）
	銅矛		指定の 状況 遺跡 遺物
伴出遺物	なし	出土状況 斜面下60cmくらいの赤土層から鋳を下にして重なるようにして出土したらしいが、詳細不明。	文 献 梅原末治『銅鐔の研究』1927年
遺跡の位置図（阿波高岡）		遺跡写真	備 考
			同行者 阿部重司
			調査年月日 1993年3月3日
			調査者 宮澤明久・穴道年弘

番号	(銅) 徳島15	遺跡名	あひらきから 星河内美田遺跡	所在地	徳島県徳島市上八万町大字星河内字美田	発見年	1932年
青銅器の 種類	銅剣	銅鐔 福平鏡式四区装束片文 7 銅矛		立地	丘陵斜面	所有者	1号「東北大学 徳島県立博物館 2-7号 同志社大学
	発見の経緯			土砂採取	保管所	徳島県立博物館 東北大学 同志社大学	
伴出遺物	不明			出土状況	不明	指定の 状況	遺跡 遺物
遺跡の位置図 (徳島)				遺跡写真		備考	
						同行者 菅原康夫	
						調査年月日	1993年3月2日
						調査者	宮澤明久・穴道年弘

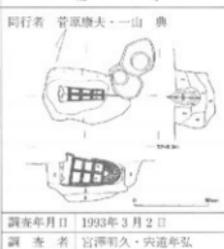
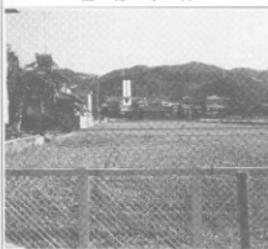
番号	(銅) 徳島16	遺跡名	あひらきから 御田遺跡	所在地	徳島県徳島市国府町矢野原田650-1	発見年	1948年3月
青銅器の 種類	銅剣	中広彩 1	銅鐔 福平鏡式六区装束片文 2 突縁鏡式六区装束片文 1 銅矛	立地	丘陵北側斜面	所有者	東京国立博物館
	発見の経緯	山林開墾中		保管所	東京国立博物館		
伴出遺物	なし			出土状況	銅鐔はそれぞれ約1mの距離で三角形の頂点の位置に出土。銅剣はその中央に鋒を斜面上方に向けて出土。	指定の 状況	遺跡 遺物
遺跡の位置図 (徳島)				遺跡写真		備考	
						探検御田遺跡・阿美上浦跡に類似。 1948年9月に出土地点の発掘調査が行なわれ、銅鐔の破片が出土して位置関係がほぼわかっている。	
						同行者	菅原康夫
						調査年月日	1993年3月2日
						調査者	宮澤明久・穴道年弘

第2章 青銅器埋納遺跡調査表

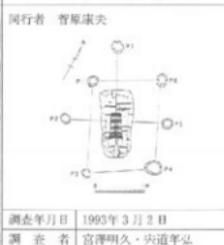
番号	(跡) 徳島17	遺跡名	カブネ 安都西遺跡	所在地	徳島県 徳島市入田町安都真168	発見年	1959年8月26日
青銅器の 種類	銅剣	扁平紐式西区装束押文 4	銅矛	立地	粘岩川右岸の丘陵東向斜面の中腹。 (標高約70m、北高約30m) 30~35度の急斜面の中腹で15度ぐら いの緩傾斜地。	所有者	高橋寛一
	発見の経緯			山林開墾中	保管所	徳島県立博物館	指定の 状況
伴出遺物	なし			出土状況	紐を斜め上にして穂を立て、最も大 きい1号鐙を中央に、その両側に 2・3号鐙を並べておき、その上 に4号鐙が穂を水平にして覆かれてい たと推定される。	文献	三木文雄「阿波国安都真出土の 銅鐙とその発跡」『考古学雑誌』 50-4, 1965年
遺跡の位置図(川越)				遺跡写真		備考	
						1号鐙は岡山県穂松山出土銅鐙と同型。 同行者 菅原康夫	
						調査年月日	1993年3月2日
						調査者	宮沢明久・内通年弘

番号	(跡) 徳島18	遺跡名	窪田	所在地	徳島県阿南市大野字窪田68	発見年	1965年
青銅器の 種類	銅剣	突縁紐式 1	銅矛	立地	北にひらく谷の東側斜面中腹。(L= 約75m) 平野部を見わたすことがで きないところ。	所有者	国立歴史民俗博物館
	発見の経緯			山林開墾中	保管所	国立歴史民俗博物館	指定の 状況
伴出遺物	陶瓦通宝・唐国通宝			出土状況	地表から20cmの深さに、傾斜に沿っ て紐を上、穂を水平にして横位の状 態で出土したという。	文献	三木文雄「内凸帯のない新出土 の銅鐙とその類型について」『考 古学雑誌』52-4 1967年
遺跡の位置図(阿波富田)				遺跡写真		備考	
						内面突帯を欠く。 同行者 阿部里司	
						調査年月日	1993年3月3日
						調査者	宮沢明久・内通年弘

番 号	(碑) 徳島27	遺跡名	名東遺跡	所在地	徳島県徳島市名東町2丁目332番地外	発見年	1987年
青銅器の 種 類	銅剣 銅鐔 扁平銚式六区装束神文 1 銅子	立 地	標高約7mの沖積微高地	発見の経緯	沖積建設に伴う事前調査(徳島市教育委員会)	所有者	徳島市教育委員会
						保管所	徳島城博物館
伴出遺物		出土状況	岡丸長方形の埋納溝	指定の状況	遺跡 遺物 県指定有形文化財(考古資料)	文献	徳島市教育委員会『名東遺跡発掘調査概要』1987年
						遺跡の位置図(徳島)	遺跡写真
同行者		菅原康夫・一山 典		調査年月日		1993年3月2日	
		調査者				宮澤明久・穴道年弘	



番 号	(碑) 徳島28	遺跡名	矢野遺跡	所在地	徳島県徳島市国府町矢野	発見年	1992年12月18日
青銅器の 種 類	銅剣 銅鐔 突縁銚式六区装束神文 1 銅子	立 地	船塚川左岸の微高地(L=約10m)	発見の経緯	国道192号徳島南環状線建設に伴う事前調査	所有者	徳島県
						保管所	徳島県立博物館
伴出遺物		出土状況	楕円長方形の埋納坑。窪の内部及び外側に微塵な砂質土を詰めている。	指定の状況	遺跡 遺物 国指定重要文化財	文献	財団法人徳島県組織文化財センター『矢野銅鐔』1993年
						遺跡の位置図(岡山)	遺跡写真
同行者		菅原康夫		調査年月日		1993年3月2日	
		調査者				宮澤明久・穴道年弘	



第2章 青銅器埋納遺跡調査表

番 号	(銅) 香川 6	遺跡名 <small>古川遺跡</small>	所在地	香川県観音寺市古川町南下	発見年	1923年4月17日
青銅器の 種 類	銅剣	銅鐔 外縁付鉈式二区渠水文 銅矛	立 地	標高約10mの平地。財田川左岸の水田地帯。	所有者	東京国立博物館
	保管場所			東京国立博物館		
	発見の経緯		土地所有者宮武殿五郎父子が麦畑を耕作中に発見。	遺跡の状況	遺跡 遺物	
伴出遺物	なし	出土状況	地表下約2尺、鏝を上下にし、鏝をやや深くした状態であったという。	文 献	上原準一「讃岐国三豊郡一ノ谷村古川発見の銅鐔について」『考古学雑誌』13-11、1923年	
遺跡の位置図（観音寺）			遺 跡 写 真		備 考	
					一説には西方の台地上、旧豊田村分出土ともいう。 高取市越路出土鏝と同型銅鐔出土地近くの一の谷遺跡（弥生後期～古墳時代前期）がある。 同行者 片新孝治	
					調査年月日	1993年3月18日
					調査者	平野芳英・松本岩雄

番 号	(銅) 香川 8	遺跡名 <small>羽方遺跡</small>	所在地	香川県三豊郡高瀬町羽方西ノ谷2841-2	発見年	1927年2月11日
青銅器の 種 類	銅剣 平形銅剣Ⅱa式 1	銅鐔 扁平鉈式六区渠狹線文 1 銅矛	立 地	北西方向に開く谷部。標高約45mの丘陵西側斜面。出土地からの視界は狭い。	所有者	東京国立博物館
	保管場所			東京国立博物館		
	発見の経緯		山下武雄・大西国八の二少年が丘陵斜面で偶然に発見。	遺跡の状況	遺跡	
伴出遺物	なし	出土状況	銅鐔は地表下約50cm、鏝を上下にし、鏝を東北に向ける。 銅剣は鏝の傾3cmのところから制伏突起を上下にし、鏝の先端に差行して置かれていた。	文 献	上原準一「讃岐国三豊郡二ノ宮村大字羽方西ノ谷発見の銅鐔及び銅剣とその出土状況について」『考古学雑誌』17-9、1927年	
遺跡の位置図（観音寺）			遺 跡 写 真		備 考	
					現在、ゴルフ場。1931年、出土地に石碑が建てられたが、ゴルフ場造成に伴い、石碑の位置が約100m移動されている。 同行者 片新孝治	
					調査年月日	1993年3月18日
					調査者	平野芳英・松本岩雄

番 号	(郷) 香川10	遺跡名	安田郷ヶ谷遺跡	所在地	香川県小豆郡内海町安田郷ヶ谷2224	発見年	銅鐸 1929年4月 銅剣 1932年、1970年
青銅器の 種 類	銅剣	東部瀬戸内系平形 平形II式	1	立 地	標高約100mの丘陵斜面。出土地から 南方のみは安田川流域の低地がら け、内海湾を望むことができる。	所有者	小豆島バス株式会社
	銅鐸	扁平弧式四区装束文	1			保 管 所	内海町民俗資料館 瀬戸内海歴史民俗資料館
	銅子					指定の 状 況	遺跡 内海町指定文化財(1973 年3月26日)
伴出遺物	なし			出土状況	銅鐸・岩城敷個の上に巨石があり、 その隙間から、鋳を上にして 出土。 銅剣・銅鐸出土地点から約2mの西 方の自然石風の崖より出土。	文 献	寺田貞次「銅鐸銅剣を出せる小 豆島安田遺蹟」『考古学』8-7 1937年7月
遺跡の位置図(複製)				遺 跡 写 真		備 考	
						1970年、香川県教育委員会の調査により 平形銅鐸の下端の一部(長さ6cm、幅4 cm)が出土。近くから発生中・後期の土 器片も出土。 同行者 石井信雄	
						調査年月日 1993年3月19日 調 査 者 平野芳英・松本岩雄	

番 号	(郷) 香川12	遺跡名	我拝師山C地点	所在地	香川県善通寺市吉原町我拝師山980-109	発見年	1966年1月
青銅器の 種 類	銅剣		1	立 地	我拝師山(標高481m)の北麓。銅剣 出土地(A・B地区)に扶まれた山 畑。130m東がA地点、100m西がB 地点である。	所有者	文化庁
	銅鐸	外縁付弧式二区流水文				保 管 所	東京国立博物館
	銅子					指定の 状 況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	地表に近く、落葉をかぶる程度であ ったらしい。発見者によれば層が水 平の状態であったという。	文 献	石川巖、松本豊胤「香川県善通 寺市我拝師山出土銅器」『日本考 古学協会第32総会研究発表要 旨』1966年
遺跡の位置図(複製)				遺 跡 写 真		備 考	
						同范器 大阪府豊中市大字椋塚原山神社地内出 土鐸 大阪府東条良遺跡出土銅型 同行者 筑川順一・片桐孝治	
						調査年月日 1993年3月17日 調 査 者 平野芳英・松本岩雄	

第2章 青銅器埋納遺跡調査表

番 号	(式) 香川1	遺跡名 香川の谷遺跡	所在地	香川県観音寺市業井町2888	発見年	1900年頃
青銅器の 種類	銅剣	銅刀	立 地	香根山(312m)の支派、北西に延びた丘上(約50m)に位置する。出土地から三豊平野全域を見渡せる。	所有者	大宮多 勇
	保管場所				観音寺市郷土資料館	
伴出遺物	なし	出土状況	石が密集しており、上方から次々と取り進むと、その石敷の下の土中に3本の銅剣が重ねて置いてあったという。	発見の経緯	崖の谷に住む大宮多晋造が井戸に使用する石を採集している時に発見。	遺跡
				指定の状況	遺物 香川県指定文化財(考古資料)	文 献
遺跡の位置図(観音寺)			遺跡写真		備 考	
					同行者 片桐孝治	
					調査年月日	1993年3月18日
					調査者	平野芳美・松本岩雄

番 号	(式) 香川4	遺跡名 北条遺跡	所在地	香川県三豊郡高瀬町大字上高瀬字北条	発見年	1850年頃
青銅器の 種類	銅剣	銅刀	立 地	鬼臼山の尾根が北北西にのびて広がっている低丘陵斜面。	所有者	瀬戸内海歴史民俗資料館
	保管場所				瀬戸内海歴史民俗資料館	
伴出遺物	なし	出土状況	落葉に覆われた高さ50~60cmの自然石を取り除いていた時に発見。	発見の経緯	江戸時代の終りごろ、香川園治が屋敷の西隣の敷のあたりを掘削中に発見。	遺跡
				指定の状況	遺物 香川県指定文化財(考古資料)	文 献
遺跡の位置図(仁尾)			遺跡写真		備 考	
					同行者 片桐孝治	
					調査年月日	1993年3月18日
					調査者	平野芳美・松本岩雄

番 号	(武) 香川 6	遺跡名	江西遺跡	所在地	香川県三豊郡山本町辻西3120番地	発見年	1818年 1月
青銅器の 種類	銅剣	銅手 中広形 1	発見の経緯	立 地	台地状地形のゆるやかな斜面。標高約40m。	所有者	国姓寺
	発見の経緯			原忠治が開墾中に発見したという。	保管場所	国姓寺	
伴出遺物	不明	出土状況	不明	指定の状況	遺跡 遺物	文 献	高橋邦彦「銅剣・古墳」『文化財協会報』特別号第3巻 1938年

遺跡の位置図(観音寺)

遺跡写真

備 考



出土地点に石碑が建てられている。
同行者 片桐孝治

調査年月日 1993年 3月18日
調査者 平野芳英・松本岩雄

番 号	(武) 香川 8	遺跡名	石谷遺跡	所在地	香川県香川郡香川町瓦谷(俗称殿林)	発見年	1918年 5月27日
青銅器の 種類	銅剣 中細形b類 2 中細形c類 4 平形 2	銅手 中細形 1	発見の経緯	立 地	標高616m大摩山(象頭山)の北西麓(標高90m)にあたる。出土地の北方には香通寺の平地を望むことができる。	所有者	東京国立博物館
	発見の経緯			石谷邦治が雑木林を開墾中に発見。	保管場所	東京国立博物館	
伴出遺物	不明	出土状況	不明	指定の状況	遺跡 遺物	文 献	梅原未治「装束文のある銅剣について―備前塚倉山と讃岐瓦谷の出土品―」『吉備考古』1951年

遺跡の位置図(大敷)

遺跡写真

備 考



現況はミカン畑で、出土地点には石社がある。
出土地点の北西側低地には朱生遺跡がある。
同行者 後川隆一・片桐孝治

調査年月日 1993年 3月17日
調査者 平野芳英・松本岩雄

第2章 青銅器埋納遺跡調査表

番号	(武)香川11	遺跡名	陳山遺跡	所在地	香川県善通寺市与北町谷陳山	発見年	1942年～43年の春
青銅器の種類	銅剣	銅刀	平形Ⅱb式 3	立地	陳山(鉢状山、標高123m)の南麓丘陵斜面。峠にあたり、眺望が良い。	所有者	讃岐宮
				発見の経緯	奈良多三郎が山林を開墾中に発見。	保管場所	善通寺市立碑十郎
				出土状況	地下40～50cm。峠と茎を交互に3本重ねてあった。剣の下には20～30個の扁平な河原石を1m程の広さに敷きつめていた。	指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし	出土状況	同上	文献	福家惣徳「香川県出土の銅剣」『考古学雑誌』37-4 1951年		
遺跡の位置図(丸亀)				遺跡写真		備考	
						現在、正確な出土地点は不明。 同行者 片桐孝治	
						調査年月日 1993年3月17日	
						調査者 平野芳美・松本岩雄	

番号	(武)香川12	遺跡名	我拝師山A地点	所在地	香川県善通寺市吉原町我拝師山	発見年	1934年3月
青銅器の種類	銅剣	銅刀	平形Ⅱb式 4	立地	我拝師山(標高481m)の北麓。出土地点は標高約100mの丘陵緩斜面で、眼下に平野を一望できる。	所有者	東京国立博物館
				発見の経緯	山林を開墾中に発見。	保管場所	東京国立博物館
				出土状況	地下40～50cm。4本が一束になって東西方向に埋蔵されていたらしい。	指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし	出土状況	同上	文献	寺田貞次「讃岐我拝師山発見銅剣と善通寺附近の上代文化」『考古学雑誌』29-11 1939年		
遺跡の位置図(丸亀)				遺跡写真		備考	
						同行者 笹川龍一・片桐孝治	
						調査年月日 1993年3月17日	
						調査者 平野芳美・松本岩雄	

番 号	(武) 香川13	遺跡名	我拝郎山B地点	所在地	香川県高松市吉原町我拝郎山	発見年	1939年5月
青銅器の 種 類	銅剣	平形Ⅱb式	1	立 地	我拝郎山(標高481m)の北麓。出土地点はA地点の西約250mで、A地点よりやや高い位置。	所有者	東京国立博物館
	銅鐔					保管所	東京国立博物館
	銅矛			発見の経緯	同層中に発見。	遺跡	
伴出遺物	分銅形土製品(銅剣発見地の隣近から後出)			出土状況	子供の銀先にかかったもので、表土よりあまり深くなく、東西に向いていたという。	文 献	寺田貞次「讃岐我拝郎山発見銅剣と高松寺町附近の上代文化」『考古学雑誌』29-11 1939年
遺跡の位置図(丸亀)				遺 跡 写 真		備 考	
						同行者 笠川龍一・片桐孝治	
						調査年月日	1993年3月17日
						調査者	平野芳英・松本岩雄

番 号	(武) 香川15	遺跡名	依岡遺跡	所在地	香川県仲多度郡高松町長尾宇東依岡(俗称岩谷)	発見年	1949年9月
青銅器の 種 類	銅剣	平形Ⅱb式	2	立 地	南に開く小谷の奥部。丘陵斜面。出土地の上方には池が掘られており、この池は湧水がある。	所有者	長尾小学校
	銅鐔					保管所	瀬戸内歴史民俗資料館
	銅矛			発見の経緯	法元の農機松下一帯が草刈中に岩の間から一部露出していたものを抜き取った。	遺跡	
伴出遺物	なし			出土状況	斜面に大岩が露出しており、その間から出土したという。	文 献	香川県教育委員会編『高松香川叢書』1983年
遺跡の位置図(丸亀)				遺 跡 写 真		備 考	
						同行者 片桐孝治	
						調査年月日	1993年3月17日
						調査者	平野芳英・松本岩雄

第2章 青銅器埋納遺跡調査表

番号	(武)愛媛2	遺跡名	大窪台遺跡	所在地	愛媛県東宇和郡宇和町久枝大窪台	発見年	1668年	
青銅器の 種類	銅剣	銅子 広形 1 不明 4 (現存せず)	発見の経緯	不明	立地	二説あり。田園は人理台の丘陵上。新説は谷ヶ内遺跡に面した丘陵斜面(写真は新説の地点)	所有者	本田照昌
	保管所						本田照昌	
	指定の状況						遺跡 遺物	
伴出遺物	不明			出土状況	不明	文献	長山源三「南予にて発見の銅剣」 人類学雑誌31 6 1916年	
遺跡の位置図(八幡浜・那之町)				遺跡写真		備考		
						<p>その他に 寛文8年3月発見 8本 寛文10年 発見 6本 享保14年 発見 15本 宝永7年11月発見 11本 伝えられているが実態は不明</p> <p>同行者 鈴木友三郎ほか</p>		
				調査年月日		1993年12月9日		
				調査者		石井 悠		

番号	(武)愛媛7	遺跡名	池所遺跡	所在地	愛媛県東宇和郡宇和町池所付近	発見年	不明	
青銅器の 種類	銅剣	銅子 中広形 1	発見の経緯	不明	立地	宇和川の沖積平野に面した丘陵の裾部(現在は池の集落)	所有者	池所八坂神社
	保管所						宇和町歴史民俗資料館	
	指定の状況						遺跡 遺物	
伴出遺物	不明			出土状況	不明	文献	松岡文一「愛媛県下の青銅器」 愛媛考古学6 1964年	
遺跡の位置図(八幡浜・那之町)				遺跡写真		備考		
						<p>同行者 鈴木友三郎ほか</p>		
				調査年月日		1993年12月9日		
				調査者		石井 悠		

番 号	(武) 愛媛9	遺跡名	なご 清沢遺跡	所在地	愛媛県東宇和郡宇和町 清沢観音寺付近?	発見年	不明
青銅器の 種 類	銅剣	平形日式	3	立 地	宇和川の流れるせまい平野に面した 段丘上	所有者	宇和町歴史民俗資料館1 松山市立埋蔵文化財センター1
	銅鐔					保管 所	宇和町歴史民俗資料館1 松山市立埋蔵文化財センター1
	銅矛			発見の経緯	不明、諸説あり	指定の 状況	遺跡 遺物
伴出遺物	不明			出土状況	不明	文 献	松岡文一「愛媛県下の青銅器」 (愛媛考古学6)1964年

遺跡の位置図(八幡浜-卯之町)

遺跡写真

備 考



発見した銅剣のうち1口は松山市桶又出土のものかもしれないという。
同行者 鈴木友三郎ほか

調査年月日 1993年12月9日
調査者 石井 悠

番 号	(武) 愛媛11	遺跡名	造後公園山麓遺跡	所在地	松山市造後湯月城域内	発見年	1905年
青銅器の 種 類	銅剣	平形日式	3 (現存1)	立 地	山裾	所有者	個人
	銅鐔					保管 所	個人
	銅矛			発見の経緯	運動場開設中	指定の 状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし			出土状況	不明	文 献	上原繁一「伊予国造後湯ノ町発見の平形銅剣」(考古学1)1930年

遺跡の位置図(松山北部)

遺跡写真

備 考



同行者 西尾幸則

調査年月日 1993年2月8日
調査者 石井 悠

第2章 青銅器埋藏遺跡調査表

番 号	(武)愛媛12	遺跡名	松山道後今市北1053 遺後今市道跡	所 在 地	松山市道後今市北1053 [一万山筋 (旧地名)]	発見年	不明
青銅器の 種 類	銅剣	平形Ⅱ式	10	立 地	松山城山の東北平地面(海拔約30m)	所有者	東京国立博物館
	銅鐔					保管 場 所	東京国立博物館
伴出遺物	不明			発見の経緯	不明	指定の 状 況	遺跡 遺物
						文 献	高橋健自「銅剣銅鐔の研究」1925年

遺跡の位置図(松山北部)		遺 跡 写 真		備 考	
				同行者 西尾幸則	
				調査年月日	1993年12月8日
				調 査 者	石井 悠

番 号	(武)愛媛13	遺跡名	松山道後横又遺跡	所 在 地	松山市道後横又	発見年	不明
青銅器の 種 類	銅剣	平形Ⅱb式	7~8	立 地	平地	所有者	秋田友一
	銅鐔					保管 場 所	秋田友一
伴出遺物	不明			発見の経緯	不明	指定の 状 況	遺跡 遺物 松山市指定文化財(考古 資料)2
						文 献	松岡文一「宇和町の弥生時代の文化」(愛媛考古学6)1964年

遺跡の位置図(松山北部)		遺 跡 写 真		備 考										
				発見した銅剣は愛媛県史の松田家1及び2にあたる。 他に <table border="0"> <tr> <td>愛媛人形神社</td> <td>1</td> <td rowspan="4">} という</td> </tr> <tr> <td>福岡八幡神社</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>石鎚神社</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>不明</td> <td>3</td> </tr> </table>		愛媛人形神社	1	} という	福岡八幡神社	1	石鎚神社	1	不明	3
愛媛人形神社	1	} という												
福岡八幡神社	1													
石鎚神社	1													
不明	3													
				同行者 西尾幸則										
				調査年月日	1993年12月8日									
				調 査 者	石井 悠									

番 号	(武) 愛媛16	遺跡名 歴取野山 表山遺跡	所 在 地	愛媛県今治市新谷土居ワキ地	発見年	1926年以前
青銅器の 種 類	銅剣	雄形(跡のみ) 1	立 地	丘陵斜面	所有者	青野 肇
	銅鐔				保 管 所	今治城
	銅矛		発見の経緯	不明	指定の 状 況	遺跡 遺物
伴出遺物	不明		出土状況	不明	文 献	『愛媛県史』1986年
遺跡の位置図(今治西部・今治東部)			遺 跡 写 真		備 考	
					同行者 岡田敏彦	
					調査年月日	1993年12月10日
					調 査 者	石井 悠

番 号	(武) 愛媛17	遺跡名 保田遺跡	所 在 地	愛媛県越前郡朝倉村下保田1638	発見年	1963年
青銅器の 種 類	銅剣	平形I式 1 平形II式 4	立 地	海抜25mのなだらかな扇状地	所有者	文化庁
	銅鐔				保 管 所	国立歴史民俗博物館
	銅矛		発見の経緯	耕作中の発見	指定の 状 況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし		出土状況	先を東北に向け刃を垂直に柄を水平に発見	文 献	『愛媛県史』1986年
遺跡の位置図(今治東部・西条)			遺 跡 写 真		備 考	
					同行者 岡田敏彦	
					調査年月日	1993年12月10日
					調 査 者	石井 悠

第2章 青銅器埋納遺跡調査表

番号	(式) 愛媛18	遺跡名	別所新地遺跡	所在地	愛媛県越前郡三川町大字別所	発見年	1964年
青銅器の 種類	銅剣	銅鐔 銅矛 中広形 2	別所新地遺跡	立地	新地の東南側の標高107mの山の八合目付近	所有者	文化庁
	保管場所					国立歴史民俗博物館	
伴出遺物	不明	不明	発見の経緯	出土状況	不明	指定の状況	遺跡 遺物
						文献	『愛媛県史』1986年
遺跡の位置図(今治西部)				遺跡写真		備考	
						同行者 岡田敏彦	
						調査年月日	1993年12月10日
						調査者	石井 悠

番号	(式) 愛媛19	遺跡名	大黒山遺跡	所在地	愛媛県東予市且之上大黒山	発見年	1799年
青銅器の 種類	銅剣……または文 1	銅鐔 銅矛 1	大黒山遺跡	立地	大明神川の沖積地を臨む標高392mの山の頂上から隔傾を少しくだったところ。	所有者	
	保管場所						
伴出遺物	不明	不明	発見の経緯	出土状況	不明	指定の状況	遺跡 遺物
						文献	松井知衡「必笑雑話」1826年
遺跡の位置図(西条)				遺跡写真		備考	
						同行者 岡田敏彦	
						調査年月日	1993年12月10日
						調査者	石井 悠

番 号	(武) 愛媛20	遺跡名	愛媛県東予市岡竹谷 竹谷藤藏寺遺跡	所在地	愛媛県東予市岡竹谷	発見年	江戸時代
青銅器の種 類	銅剣	平形I式 2	立 地	中山川の沖積平野に面した丘陵先端の独立丘陵の背後	所有者	藤藏寺	
	銅鐔	発見の経緯				不明	
	銅矛		指定の状況	遺跡	遺物		
伴出遺物	なし	出土状況	不明	文 献	『東予市史』1987年		
遺跡の位置図(西条)				遺 跡 写 真		備 考	
						同行者 岡田敏彦	
						調査年月日 1993年12月10日	
						調 査 者 石井 悠	

番 号	(武) 愛媛21	遺跡名	愛媛県東予市岡竹谷 藤田遺跡	所在地	愛媛県東予市岡竹谷 藤田	発見年	1894年
青銅器の種 類	銅劍	中鎧形a型 1	立 地	中山川が形成した扇状地上。	所有者	坂岡八幡宮	
	銅鐔	発見の経緯				古い湧水池を掘削中に、地下約2mから偶然発見。	
	銅矛		指定の状況	遺跡	遺物		
伴出遺物	不明	出土状況	不明	文 献	『東予市史』1987年		
遺跡の位置図(西条)				遺 跡 写 真		備 考	
						出土地点に道路を挟んでA、Bの2説あり。(写真はB地点)	
						同行者 岡田敏彦	
						調査年月日 1993年12月10日	
						調 査 者 石井 悠	

第2章 青銅器埋納遺跡調査表

番 号	(武) 愛媛22	遺跡名	天神谷遺跡	所 在 地	愛媛県東予市福伏寺天神谷	発見年	1962年
青銅器の 種 類	銅剣	銅剣	銅子	立 地	大明神川の沖積平野に開口する小堀状地の扇頂部(標高約73m)	所有者	京都国立博物館5 施設収蔵1
						保管所	京都国立博物館 施設収蔵
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし	出土状況	地皮下約50cmのところから一括出土。扁平な花崗岩を数個並べており、その上に銅剣を置いたと推定される。	文 献	『東予市史』1967年		

遺跡の位置図(西条)		遺跡写真	備 考
			同行者 岡田敏彦
			調査年月日 1993年12月10日 調査者 石井 悠

番 号	(武) 愛媛29	遺跡名	祝谷六丁場遺跡	所 在 地	松山市祝谷6丁目	発見年	1988年2月
青銅器の 種 類	銅剣	銅剣	銅子	立 地	丘陵裾の斜面	所有者	松山市教育委員会
						保管所	松山市立埋蔵文化財センター
						指定の状況	遺跡 遺物
伴出遺物	なし	出土状況	平面ブロンズ板内影を呈する埋納坑内より検出された。埋納時には刃部を北に向け、垂直に埋納されていたと、調査者は推定している。	文 献	松山市教育委員会『祝谷六丁場遺跡一調査報告1』1991年		

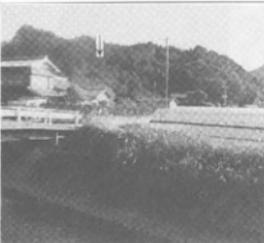
遺跡の位置図(松山北部)		遺跡写真	備 考
			同行者 西尾幸則
			調査年月日 1993年12月10日 調査者 石井 悠

番号	(武)高知10	遺跡名	ホコノコシ遺跡	所在地	高知県高岡郡窪川町作屋ホコノコシ	発見年	1943年
青銅器の種類	銅鑄	銅鐸 銅子 中広形目式 1 (律調半分)	発見の経緯	立地	四方十川に面した小さい谷のなかなる南向き斜面。	所有者	高知県立歴史民俗資料館
	見聞			畑の間屋中。	保管場所	高知県立歴史民俗資料館	指定の状況
伴出遺物	不明	出土状況	不明	文獻	岡本健児「高知発見の銅子について」『高知の研究』1 1983年		
遺跡の位置図(窪川)				遺跡写真		備考	
						市生原所在高賀彦神社所造の銅子6本のうち、袋部だけのものと同一個体の可能性を指摘する旨あり。 同行者 田井泰雄・武田正一	
						調査年月日	1993年11月15日
						調査者	尾立克己・鳥谷芳雄

番号	(武)高知11	遺跡名	西ノ川口遺跡	所在地	高知県高岡郡窪川町作屋西の川河777	発見年	1935年
青銅器の種類	銅鑄	銅鐸 銅子 広形 4 中広形 1	発見の経緯	立地	四方十川に注ぐ支流が形成した小さな谷の南向き斜面。	所有者	高知県立歴史民俗資料館
	見聞			山裾に沿って水路をつくるため、斜面を削った際に出土。	保管場所	高知県立歴史民俗資料館	指定の状況
伴出遺物	なし	出土状況	地表下約1.8mのところから、斜面の等高線に垂直する形で、刃を立てた状態で出土。広形4の間に中広形1を打ちちがえて並べる。	文獻	岡本健児「埋納穴を有せる銅鐸形器物」『季刊どるめん』7 1975年		
遺跡の位置図(窪川)				遺跡写真		備考	
						1970年出土地点を発掘調査。埋納坑の一部を検出。埋納坑は最大幅92cm、穴上部126cm、口径62cm、深さ104cmの袋状小墓穴。 同行者 田井泰雄・武田正一	
						調査年月日	1993年11月15日
						調査者	尾立克己・鳥谷芳雄

第2章 青銅器埋納遺跡調査表

番号	(式) 高知12	遺跡名	概々遺跡	所在地	高知県高知郡池田町榎々崎	発見年	1657年
青銅器の 種類	新銅 新鉄 銅矛 中広形4、広形1			立地	四方十川と支流、東又川の合流点に形成された盆地の中の、両河川に挟まれた丘陵西側山腹に位置する	所有者	高岡神社
						保管所	高岡神社
						遺跡	
						指定の状況	遺物
伴出遺物	なし			出土状況	不明	文献	岡本健児「高知県史」考古編1968年
遺跡の位置図(窪川)				遺跡写真		備考	
						<ul style="list-style-type: none"> ●中広2本は鋒部欠損残り2本は折れたところを鉄板を打ちつけて、銅で機軸所も止めて接続 ●耳に後世、円形の穿孔 ●広形1本も万部中程を鉄板で補装 同行者 田井泰雄・武田正一	
						調査年月日	1993年11月15日
						調査者	足立克己・鳥谷芳雄

番号	(式) 高知15	遺跡名	概々遺跡	所在地	高知県須崎市長介	発見年	1954年
青銅器の 種類	新銅 新鉄 銅矛	1号銅剣 2号銅剣 3号銅剣	中細形c類 中細形a類 中細形a類	立地	新庄田支流坂ノ川の沖積地に向かって開口する小さな谷の南向き斜面	所有者	文化庁
						保管所	東京国立博物館
						遺跡	
						指定の状況	遺物
伴出遺物	なし			出土状況	鋒を西、茎を東の方向に向け、ほぼ水平に上から2号、3号、1号の順に重なる。	文献	文化財保護委員会 「高知県須崎市長介出土銅器銅剣」 『埋蔵文化財調査』2 1959年
遺跡の位置図(須崎)				遺跡写真		備考	
						<ul style="list-style-type: none"> ●1号 全長50.5cm ●2号 全長36.8cm 刃部中程で二つに折れる元翼部に穿孔あり ●3号 全長37.5cm 元翼部に反孔あり 同行者 香崎和乎	
						調査年月日	1993年11月16日
						調査者	足立克己・鳥谷芳雄

